

七つの鉢

シリーズ～終末を生きる～

ヨハネの黙示録 15～16章

2018/8/26

先週までのおさらい(4～9章)

- 天上の礼拝(4章)
- 「屠られた小羊」登場(5章)
 - 終末をもたらす資格のある唯一の方
- **七つの封印**(6章)
 - 征服者・戦い・物価高騰・疫病・殉教者・天変地異
- 殉教者たち(7章)
 - 「十四万四千人」
- **七つのラッパ**(8～9章)
 - 陸の災い・海の災い・水の汚染・天体異常・人を苦しめるさそり・2億人の騎兵

先週までのおさらい(10~14章)

- 小さな巻物(10章)
 - ヨハネの再召命
- 二人の証人(11章)
 - 終末における宣教
- 女と竜(12章)
 - 神の民とサタンをめぐる経緯
- 二匹の獣(13章)
 - サタンの最後の戦い
- 二匹の獣と従った人々の裁き(14章)

ヨハネの黙示録15章

わたしはまた、天にもう一つの大きな驚くべきしるしを見た。七人の天使が最後の七つの災いを携えていた。これらの災いで、神の怒りがその極みに達するのである。わたしはまた、火が混じったガラスの海のようなものを見た。更に、**獣に勝ち、その像に勝ち、またその名の数字に勝った者たちを見た**。彼らは神の豎琴を手にして、このガラスの海の岸に立っていた。彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とをうたった。「全能者である神、主よ、あなたの業は偉大で、驚くべきもの。諸国の民の王よ、あなたの道は正しく、また、真実なもの。主よ、だれがあなたの名を畏れず、たたえずにおられましょうか。

聖なる方は、あなただけ。すべての国民が、来て、あなたの前にひれ伏すでしょう。あなたの正しい裁きが、明らかになったからです。」

この後、わたしが見ていると、天にある証しの幕屋の神殿が開かれた。そして、この神殿から、七つの災いを携えた七人の天使が出て来た。天使たちは、輝く清い亜麻布の衣を着て、胸に金の帯を締めていた。そして、四つの生き物の中の一つが、世々限りなく生きておられる**神の怒りが盛られた七つの金の鉢**を、この七人の天使に渡した。この神殿は、神の栄光とその力とから立ち上る煙で満たされ、七人の天使の七つの災いが終わるまでは、だれも神殿の中に入ることができなかった。

七つの鉢の登場

- 二匹の獣との戦いに勝利し、信仰を守り通した人々の賛美
 - 「すべての国民が、来て、あなたの前にひれ伏すでしょう。あなたの正しい裁きが、明らかになったからです。」
- 七つの金の鉢が七人の天使に渡される
 - 「世々限りなく生きておられる神の怒りが盛られた」
- 神殿が閉ざされる > 主への訴えは届かない
 - 「七つの災いが終わるまでは、だれも神殿の中に入ることができなかった」

ヨハネの黙示録16章

また、わたしは大きな声が神殿から出て、七人の天使にこう言うのを聞いた。「行って、七つの鉢に盛られた神の怒りを地上に注ぎなさい。」

そこで、**第一の天使**が出て行って、その鉢の中身を地上に注ぐと、獣の刻印を押されている人間たち、また、獣の像を礼拝する者たちに**悪性のはれ物**ができた。**第二の天使**が、その鉢の中身を海に注ぐと、**海は死人の血**のようになって、その中の生き物はすべて死んでしまった。**第三の天使**が、その鉢の中身を川と水の源に注ぐと、**水は血**になった。

そのとき、わたしは水をつかさどる天使がこう言うのを聞いた。「今おられ、かつておられた聖なる方、あなたは正しい方です。このような裁きをしてくださったからです。」

この者どもは、聖なる者たちと預言者たちとの血を流しましたが、あなたは彼らに血をお飲ませになりました。それは当然なことです。」わたしはまた、祭壇がこう言うのを聞いた。「然り、全能者である神、主よ、あなたの裁きは真実で正しい。」

第四の天使が、その鉢の中身を太陽に注ぐと、太陽は人間を火で焼くことを許された。人間は、激しい熱で焼かれ、この災いを支配する権威を持つ神の名を冒瀆した。そして、悔い改めて神の栄光をたたえることをしなかった。

第五の天使が、その鉢の中身を獣の王座に注ぐと、獣が支配する国は闇に覆われた。人々は苦しみもだえて自分の舌をかみ、苦痛とはれ物のゆえに天の神を冒瀆し、その行いを悔い改めようとはしなかった。

第六の天使が、その鉢の中身を大きな川、ユーフラテスに注ぐと、川の水がかかれて、日の出る方角から来る王たちの道ができた。わたしはまた、竜の口から、獣の口から、そして、偽預言者の口から、蛙のような汚れた三つの霊が出て来るのを見た。これはしるしを行う悪霊どもの霊であって、全世界の王たちのところへ出て行った。それは、全能者である神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを集めるためである。—見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩くのを見られて恥をかかないように、目を覚まし、衣を身に着けている人は幸いである。—汚れた霊どもは、ヘブライ語で「ハルマゲドン」と呼ばれる所に、王たちを集めた。

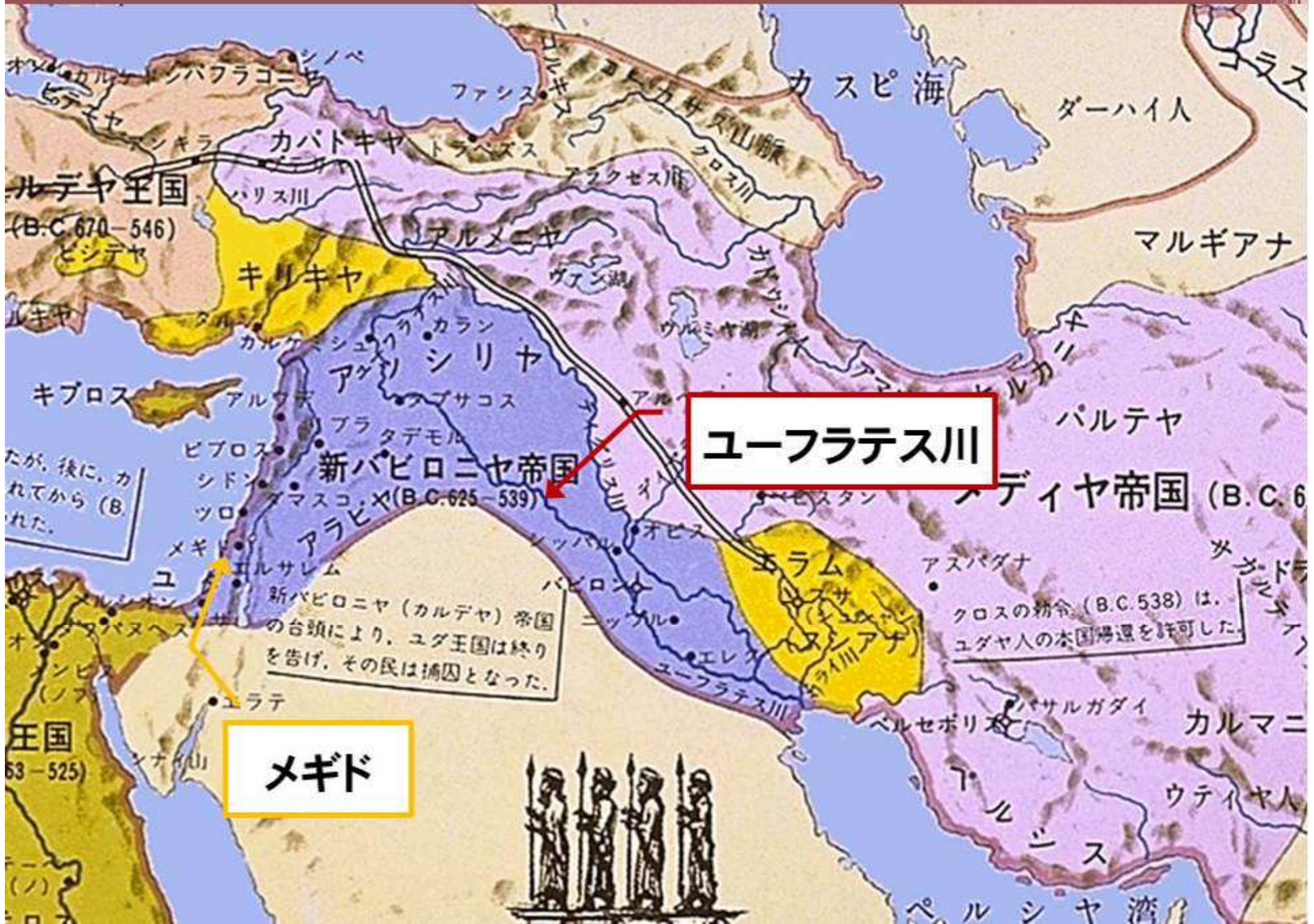
第七の天使が、その鉢の中身を空中に注ぐと、神殿の玉座から大声が聞こえ、「事は成就した」と言った。そして、稲妻、さまざまな音、雷が起こり、また、大きな地震が起きた。それは、人間が地上に現れて以来、いまだかつてなかったほどの大地震であった。あの大きな都が三つに引き裂かれ、諸国の民の方々の町が倒れた。神は大バビロンを思い出して、御自分の激しい怒りのぶどう酒の杯をこれにお与えになった。すべての島は逃げ去り、山々も消えうせた。一タラントンの重さほどの大粒の雹が、天から人々の上に降った。人々は雹の害を受けたので、神を冒瀆した。その被害があまりにも甚だしかったからである。

第1～第3の鉢の災い

- 第1の鉢:「悪性のはれ物」
 - ただし「獣の刻印を押されている人間」にだけ
- 第2の鉢:海が血のようになる
 - 海の生き物が全滅する(→第二のラツパ)
- 第3の鉢:水源が血になる
 - 飲み水が汚染される(→第三のラツパ)
- 「水をつかさどる天使」の言葉
 - 「この者どもは、聖なる者たちと 預言者たちとの血を流しましたが、あなたは彼らに血をお飲ませになりました。それは当然なことです。」

第4～第6の鉢の災い

- **第4の鉢：太陽が人間を焼く**
 - 「神の名を冒瀆した。そして、悔い改めて神の栄光をたたえることをしなかった。」
- **第5の鉢：闇と苦痛**
 - 「天の神を冒瀆し、その行いを悔い改めようとはしなかった」
- **第6の鉢：王たちがハルマゲドンに集まる**
 - ユーフラテス川がかれて王たちの道ができる
 - 竜・獣・偽預言者の口から「蛙のような汚れた三つの霊」が出て、全世界の王を集める＞19章



ユーフラテス川

メギド

カルデア王国
(B.C. 670-546)
バビロニア

だが、後に、カ
れてから (B.
れた。

新バビロニア (カルデア) 帝国
の台頭により、ユダ王国は終り
を告げ、その民は捕囚となった。

クソスの勅令 (B.C. 538) は、
ユダヤ人の本国帰還を許可した。



第7の鉢の災い

- 神の玉座から「事は成就した」との声
 - 終末の災いが終了した
- 大地震が起こり、「あの大きな都が三つに引き裂かれ」、諸国の町も倒れる
 - 神に敵対する勢力、場所などが完全に崩壊する
 - 「島は逃げ去り、山々も消え失せた」
- 「大バビロン」に神の怒りが注がれる
 - 人々を惑わし、サタンを礼拝させた組織
- 1タラントン(35キロ?)もの雹が降る
 - それでも人々は「神を冒瀆した」

七つの鉢の災い

- 神の怒りが極みに達する
 - 今は押さえておられる
- 「獣の刻印を押されている人間」への災い
 - 彼らにも悔い改めのチャンスがあるのか？
- 徹底的に行われる災い
 - 海の生き物・水源・太陽
- 最後の最後まで悔い改めない人がいる
 - 「悔い改めて神の栄光をたたえることをしなかった」
 - 「その行いを悔い改めようとはしなかった」
 - **終末は最後の悔い改めのチャンスである！**